

筑波大辞典

大学に入学すると、知らなかった用語や略語を聞くとお思います。ここでは大学生がよく使ったり、筑波大ならではの言葉を紹介しつす！先輩方の話している言語の解説に用いてください。

<ITF.(あいていーえふ)>

IMAGINE THE FUTURE の略称。筑波大学開学の理念を象徴するスローガンとして2010年に制定された。ネット上では筑波大学そのものを表す略語として用いられることが多い(大学名をそのまま略したUTはあの国立T大とまるっきり一緒だから)。ピリオドまでつけるのが肝心だとか。ちなみに、「IMAGINE THE FUTURE ~未来を想え」という筑波大オリジナルソングがあり、聞くと癖になるためぜひYouTube(以下、サムネ画像)で検索して聞いてみてほしい。



<アカサポ(アカサポ)>

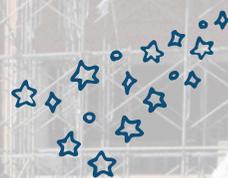
アカデミックサポートセンターの略称。総合学域群に関する事務的な手続きを担ったり、移行の相談にのったりしてくれるいわゆる支援室。アカサポの職員さんはとても優しいため、困ったときはぜひ頼ろう。

<天〇(あま〇)>

天久保〇丁目の略称。天1(あまいち)、天2(あまに)、天3(あまさん)、天4(あまよん)、裏天3(うらあまさん)がよく言われる。入学後、住んでいる場所の話になるときに先輩はこのような用語を使うかもしれない。

<天の川(あまのがわ)>

第2エリアと第3エリアの間に流れる川のこと。第2エリアは女子学生が多く、第3エリアは男子学生が多くいることから、この名前がついたらしい。七夕の日に何かが起こるのかということ……そんな噂はない。



<石広(いしひろ)>

石の広場の略称。コンクリート上の土地が広がっている。ここ数年の石広では、石広ハロウィンというハロウィンイベントや有志学生によるフリーマーケットなどが行われていた。



クリスマス近くに筆者が撮影した石広にある像の写真。クリスマスを連想させる色のマフラーがプレゼントされており、季節のイベントも楽しめる。



<オンデマ(おんでま)>

オンデマンド型授業の略称。オンデマンド型授業とは、manabaなどに載せられている授業動画を自分で見て受ける授業のこと。動画を見る時間は定められていないため、オンデマの時限は実質空きコマ。しかし、動画の閲覧期間が短いものもあるため注意。コメントや小テストなどで出席を確認したり、成績をつけたりすることが多い。

<学群、学類(がくぐん、がくるい)>

筑波大学が初めて導入した教育組織とその呼び方。学際性を大切にしているがゆえの名称である。他の一部の大学でも使用されているらしい。ざっくり言えば、他大学の学部・学科がそれぞれ学群・学類に当たる。以下が学群・学類の一覧。

学群	学類	略称	学群	学類	略称
人文・文化学群	人文学類	人文/help	理工学群	数学類	数学/math
	比較文化学類	比文/ccc		物理学類	物理/phys
	日本語・日本文化学類	日日/じゃばじゃば		化学類	化学/chem
社会・国際学群	社会学類	社会学/社会/css		応用理工学類	応理/coens
	国際総合学類	国際/国総/cis		工学システム学類	エンス/esys
人間学群	教育学類	教育/edu		社会工学類	社工/pops
	心理学類	心理	情報学群	情報科学類	情科/coins
	障害科学類	障科/障害/huds		メディア創成学類	メ創/mast
生命環境学群	生物学類	生物/biol		知識情報・図書館学類	知識/klis
	生物資源学類	資源/bres	医学群	医学類	医学/med
	地球学類	地球/earth/geo		看護学類	看護/nurse
体育専門学群	体専	医療科学類		医療科/meds	
芸術専門学群	芸専/a&d		総合学域群		総合/総学/scs

ちなみに、総合学域群のscsは「School of Comprehensive Studies」の略。筑波大に馴染んでいくと、「私、人間!」「俺は地球!」などというような会話も違和感なく聞こえてくる。

<春〇(かす〇)>

春日〇丁目の略称。春3、春4あたりをよく聞く。春日にあるカラオケ屋も「カス」がついて呼ばれることが多いが、この略し方に慣れていないと急に出てくる「カス」のワードに驚くかも。

<春日キャンパス(かすがキャンパス)>

春日エリアの俗称。元々は別の大学であったために、他エリアから少し離れていることを揶揄する際などに使われる。正式名称は「春日エリア」。

<学費(がくひ)>

天の川の水源となる池にある噴水の俗称。夜中でも湧いていたり、逆に昼間に湧いてなかったりと湧くタイミングは謎。「濁り学費」(その名の通り水が濁っている)や「高い学費」(金額ではなく水が上がる位置が高い)を見られたらレア!



↑
入学して一度しか見たことがない濁り学費

<切る(きる)>

主に授業を休むときに使う動詞。意図的な休みの意味合いが含まれることが多い。授業の履修をやめるという意味で使われることもある。

<芸バチ(げいばち)、体バチ(たいばち)>

ともに5C棟2階に位置する部屋の愛称。正式には、芸バチは学生控室(5C208)、体バチは学生支援・広報フロア(5C220)と名前が付いている。愛称には、ガラス張りで金魚鉢みたいだからという由来があるらしい。たまに大学の公式の書類でもこの名前と呼ばれている。誰でも自由に利用でき、学習をしたりお喋りしたりミーティングをしたりでよく賑わっている。昼休みはパンも販売されている。

<○限(○げん)>

高校までの○時間目のこと。なぜか大学では○限と呼ぶ。一回の授業が1時間ではなく、75分(他大は90分が多い)であるからだろうか。

<研学(けんがく)>

研究学園の略称。つくばエクスプレスの研究学園駅付近などを指して「研学に○○の店あったよね」のように使われることがある。「研究学園都市」を「研学都市」と略している人は見たことがない。

<サテ室(さてしつ)>

パソコンや印刷機が置いてある、全学計算機システムのサテライト室の略称。一部のサテ室は24時間利用可能なため、レポート作成のためなどに夜遅くまで利用する学生もいる。サテ室で一夜を過ごすことは「サテ泊」(さてはく)と呼ばれる。

<残機(ざんき)>

単位を落とさない程度に欠席できる回数のこと。授業回数のうち3分の2以上を出席しないと単位をもらえないことが多い。もちろん授業は出席するに越したことはないが、体調不良や実習などでどうしても残機を消費しなければならないときがある。

<支援室(しえんしつ)>

学類事務の全てを担う場所。総合学域群の支援室はアカサポという通称があるが、その他の学類にとってのアカサポは支援室である。欠席届を受け取ったり、教職の介護等体験のやり取りを行ったりなど、利用する人はかなりお世話になる場所。アカサポ以外の支援室はお役所の雰囲気と似ている。

<自主休講(じしゅきょうこう)>

授業を無断欠席すること。ブッチすること。主な原因は寝坊(この場合特に、「寝ブッチ」とも言う)が挙げられるが、中には教員自身の寝坊によって、「自主休講」となることもあるらしい。



<趣味単(しゅみたん)>

趣味としてとる単位、つまり授業のこと。必修や卒業単位など関係せずに、純粋な知的好奇心によって受けたと思う授業としての意味合いが強い。総合生のときは必修や移行要件の関係でとりたい授業をとれないことが多いと思うが、興味がある授業は積極的にとってみよう。意外な学類で自分の可能性を広げる授業が開講されているかもしれないため、「筑波大学KdBっぼいなにか」(<https://make-it-tsukuba.github.io/alternative-tsukuba-kdb/>)のキーワード検索を利用してみよう。

<芝充(しばじゅう)>

中央図書館前の石の広場と「学費」に挟まれた芝生で何かすること。多くの場合は、晴れの日で昼食をとることを指す。たまに一人でお昼寝している人もいる。

秋の晴れた日に粉クリパンで芝充→



<シラバス(しらばす)>

授業内容や計画、評価方法などがまとめられている資料のこと。KdBや「筑波大学KdBっぼいなにか」、Twin:teから見られる。履修を組むときに大いに参考にする。

<人権(じんけん)>

自転車のこと。広大な筑波キャンパスで過ごすためには、「無くては満足に過ごせない」ものであることからこのように呼ばれがち。履修によっては休み時間の教室移動が間に合わないことすらあるらしいので、こんな呼ばれ方も納得できるのではないだろうか。

<スタンプラリー(すたんぷらりー)>

各種申請書類に必要な押印をもらうために複数の教職員の元を訪れること。主に履修申請期間を過ぎた履修登録を解除したり、サークル活動のために教室を予約したりするために行うことが多い。

<そぼたん>

筑波大学の学園祭、雙峰祭の公式マスコットキャラクター。普段は筑波山に住んでいるらしい。語尾は「～そぼ」。かわいい!公式LINEスタンプ

(<https://store.line.me/stickershop/product/28673263/ja>)

もある。



<3S(さんえす・すりーえす)>

筑波大生がよくしていることとして引き合いに出される三つの事柄、Study(勉強)、Sport(運動)、Sex(恋愛)、のこと。TXが開通する以前から用いられていたらしいので、現状の筑波大学生を的確に言い表せているかは定かでない。

<第四学群(だいよんがくぐん)>

筑波大学の地下に存在し、あやしい実験をしているとされる架空の学群。筑波大ではかつて第一、第二、第三学群のように数字で学群名が付けられていた時期があり(総称してナンバー学群と呼ばれる)、第四学群も創設される構想はあったようだが、実際には作られなかった。幻となった第四学群の名称、そして地下通路の怪しさも相まって、このような都市伝説が生まれたと考えられる。

<宅通(たくつう)>

実家から大学に通うこと。宿舎や賃貸での一人暮らしの多い筑波大学では、少数派。一人暮らしと比べると、終電までに帰らなければいけない等、何かと苦労もあるが、家事の負担の少なさや家族の温もりといった一人暮らしには無い魅力も存在する。「多苦痛」なんて当て字もある。

<脱獄(だつごく)>

年度途中に宿舎を出ること。早いと入居して1か月たたないで出る人もいる。学生宿舎の狭さが故に監獄と見立てられることから、このように呼ばれる。学生宿舎を契約期間満了で出るとは、刑期満了として出所と呼ばれる。

<地下通路(ちかつうろ)>

筑波大学の地下に存在する通路で、正式には共同溝という。南北約4kmの幹線をはじめとして、合計約14kmの長さには達するとか。水、ガス、冷暖房、電力等の配管や配線が大量に詰まっており、大学関係者の生活環境を縁の下の力持ちで支えている。年1回程度の見学ツアーが行われているらしい。入学したら都市伝説のような噂を聞くかも。

<筑波おろし(つくばおろし)>

筑波特産の大根おろし……ではなく、筑波山から吹き寄せてくる風(おろし=「凧」とは本来そういう意味)……でもなく、つくば市周辺の冬期における北西風全般のことを指す。つくばの冬は特に風が強く、そして寒い。

<筑波時間(つくばじかん)>

筑波大生の時間感覚のこと。多くは実際の時間より2時間遅く認識している(実際が23時なら21時)ことを指す。原因は不明だが、一説には一人暮らしで生活リズムが不規則になることなどが要因といわれる。今まで夜ごはんを食べていた時間にサークル活動を行うということに筆者は最初違和感を覚えたが、だんだん夜型人間になっていった。

<つくバック(つくばっく)>

どこか別の土地からつくばに帰ってくることを。帰筑(きつく)ともいうが最近あまり聞かない。対義語に「つくバイバイ」がある。

<TA(ていーえー)>

Teaching Assistantの略称。授業で教員をサポートする学生のこと。大学院生が務めていることが多い。移行後、総合学域群の後輩のクラスのファーストイヤーセミナーでTAのようなバイトをするチャンスがあるかも。

<TX(ていーえっくす)>

つくばエクスプレスの略称。筑波大生が東京に出るのにとっても重宝する手段。多くの宅通勢もこれに乗ってやってくるだろう。秋葉原駅まで最短45分で到着する。守谷エクスプレスというものも存在するが、それは守谷が終点であるためつくばには帰れない。秋葉原駅からつくばに帰れる終電は23時45分(2345!)であると覚えておこう。



<TMライナー(ていーえむらいなー)>

つくばー石岡ー水戸間をつなぐ高速バス。つくばの北にも茨城県は広がっているのに、つくばと茨城県内の電車の駅は直接接続していない。そのため、つくばから水戸に行くには土浦駅までバスで行き、そこから常磐線に乗る必要がある。TMライナーだとより安く、早く移動できる。特に自動車の本免試験を受けに水戸の免許センターに行く際はTMライナーを使うのがおススメ。

<同時双方向(どうじそうほうこう)>

同時双方向型授業のこと。オンデマとの違いは、その授業の時限にリアルタイムでzoomなどで授業が行われること。講義形式が多いが、オンライン上でカメラ・マイクオンでグループワークをすることもある。



<図情(とじょう)>

図書館情報大学、つまり現在の春日エリアのこと。2004年に筑波大学に完全統合されたが、現在でも一部のサークルの名称などに名残がみられる。ちなみに、春日エリアにある図書館は「図書館情報学図書館」であり、「筑波大学附属図書館 図書館情報学図書館」となると早口言葉みたい。

<飛ぶ(とぶ)>

何かをサボること。もしくは何かから逃れること。前述の「切る」と異なり、サークルやバイトなど授業以外の文脈でも使える。「先輩が飛んで急にサークルの長をやることになった」など。

<鍋敷き(なべしき)>

現在はあまり呼ばれていないが、毎年冊子体で配布される「履修要覧」のことだと思われる。かなり分厚いにも関わらず、履修する科目を決定した後(特に該当年度以降)は無用の長物と化すことからそう呼ばれたらしい。筆者はどの教職の科目をとればよいか調べるために、インターネット上のPDF版の履修要覧を参考にすることが多い。しかし、鍋敷きにはどの科目を履修したか書き込んで確認できるため、鍋敷き以外の用途でも有用である。

<にじひろ>

第2エリアと一の矢学生宿舎の間にある「虹の広場」のこと。運動系のサークルが使っていることも多い。広場の周りにはランニングコースもあるが、夜はとても暗く、天体観測や肝試しにはいいかも。



<のや>

一の矢の略称。平砂のことは「すな」、追越のことは「こし」、春日のことは「すが」、と呼びはしないのに、一の矢だけはこのような略称で呼ばれる。一の矢宿舎居住者は「のや民」と呼ばれることがある。

<博士号>

松美池に浮かんでいるスワンボートのこと。なぜその由来がついたかは(少なくとも筆者は)不明。入学したらぜひ博士号を探してみよう。



<ば号(ばごう)>

つくばセンターと東京駅間を通る高速バス「つくば号」の略称。TXより時間はかかるが、確実に座って東京に行ける。しかも、大学構内から出発するバスもあり、つくばセンターに一旦行く必要がないのもポイント。渋滞により到着が遅れる可能性があるため、大事な用事があるときはTXを利用することを勧める。

<B○(びー○)>

学部○年生の略称。学部1年生はB1。BはBachelorの頭文字であり、学士の意味。ちなみに修士はMaster、博士はDoctorであり、M○、D○とそれぞれ表される。

<東大通り(ひがしおおどおり)>

日本の道100選にも選ばれた、大学の東側を通る17.1kmにも及ぶ幹線道路。初めのうちは「とうだいどおり」とうっかり呼んでしまいがちだが、時間短縮などのため、あえてそう呼ぶ人もいるとか。西大通り、北大通り、南大通りもちゃんとある。

<平カス(ひらかす)>

カスミ 筑波大学店のこと。平砂宿舎に近いため、こう呼ばれる。桜にあるカスミは桜カスと呼ばれる。平砂・追越宿舎民や春日住みの人にとって、大学帰りに寄りやすいのありがたい。24時間開いている桜カスに自転車を飛ばすこともある。



<平トン(ひらとん)>

平砂学生宿舎とカスミの間の道を西に進むと通ることになる、大学内外をつなげる平砂トンネルのこと。夜暗いときに通ると、いろいろと怖い。年中蜘蛛の糸に葉っぱがくっついて垂れ下がっているらしい。

<文サ館(ぶんさかん)>

文化系サークル会館の略称。音楽系サークルなどが練習に利用している。芸術系サークルも芸サと略されることがある。

<ペデ(ぺで)>

歩行者専用道路であるペデストリアンデッキの略称。つくば市を縦断する道路で、南は洞峰公園や赤塚公園、北は筑波大学一ノ矢エリアまで伸びている。筑波大生がこの語を用いる時は多くの場合、学内の部分を指すことが多い。その名に反して、通行量としては歩行者よりも自転車のほうが圧倒的に多い。1階だと思ったらペデ上にいたから2階だった！という経験は筑波大生誰もがするだろう。

<ほけかん>

英語を学ぶCEGLOC (せぐろっく)の向かいに位置する保健管理センターのこと。1年に1回、健康診断でお世話になる。平日は内科、整形外科、精神科の診療を受けることができ、薬ももらえる。有料だが、緊急の場合は頼ろう。また、ワクチン接種も行っていることがあるので、接種を受けたい場合はホームページで要チェック。

<本学(ほんがく)>

主に第一～第三エリアのことを指す。春日エリアと対比して、こう呼ぶことが多い。一部の学生からは「春日が本学、第一～第三エリアは天王台」という声も聞かれる。

<松美池(まつみいけ)>

第1エリアの南にある池のこと。前述の博士号はここに浮かんでいる。カモも泳いでいる。なかなかいい雰囲気のところ。春日エリアの西に大きい塔の立った松見公園があるが、漢字が松美池とは違っている。他にも大学構内には、兵太郎池や天久保池、追越池といった池が存在する。



<〇つくば>

学生主催の自主発表会の総称。登壇者が自身の研究内容や関心について自由に発表を行う。2018年の「哲つくば」が発端だが、その後、別の主催者によって「生つくば」や「歴つくば」などが開催されている。

<やど祭マジック(やどさいまじっく)>

毎年5月末に開催される宿舎祭(やどかり祭)の準備などで交流が深まり、カップルが生まれるというジンクス。1年生は会って日の浅いクラスメイトと仲を深めるチャンス。雙峰祭マジックも存在するらしい。



<モジュール(もじゅーる)>

授業の区切りの期間のこと。高校までの学期に近いイメージ。筑波大は春学期と秋学期に分かれ、その学期ごとにA、B、Cとモジュールが分かれる。モジュールごとに開講される授業が異なり、学類によってはほとんど授業がないモジュールもある。春C、秋Cはその後の長期休みを踏まえた留学などを加味して授業が少ない学類が多い。期末試験期間は大量のテストやレポートに追われるため、それらを全てこなして「春B脱出～」などと言う声をよく聞く。

<ゆかコン(ゆかこん)>

やどかり祭で毎年開催される「浴衣コンテスト」の略称。浴衣を着た1年生のグループが出場し、ダンスなどのパフォーマンスを行う。

<楽単(らくたん)>

簡単に単位がとれる授業のこと。主に授業ごとの小テストだけで成績が決まったり、評価が易しかったりする授業がこう呼ばれる。先輩たちは楽単情報をよく知っているため、履修相談のときに聞いてみよう。逆に鬼単は単位をとることが難しい授業。でも鬼単でも自分が興味あれば楽しくやれるかもしれないため、挑戦してみる価値はある。

<落単(らくたん)>

前述の楽単と読み方は同じだが、これは意味が大違い。単位を落とすこと。大学は高校までよりも、授業への出席の有無や課題をこなすか否かが個人の責任にかかっている。落単のしすぎには注意しよう。

<ループ(るーぷ)>

筑波大学のキャンパスを囲むように造られた環状の道路のこと。南北5km、東西に1kmにおよぶ全5つのエリアを結んでいる。循環バスも通っている。ペデ上が自転車で混んでいるとき、ループを通ってみると裏道的にスムーズに進めるためおすすめ。

ペデの景色も趣深い→

<レジュメ(れじゅめ)>

主に教員が作成する授業資料のこと。manaba上で共有されたり、印刷されて配られたりする。レジュメがない授業では、パソコン上や紙のノートにメモをする学生が多い。

